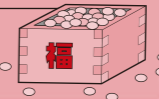


# 学びの広場

地域で学び、活動する  
皆さんを応援します  
北秋田市教育委員会

- 公民館活動 ●生涯学習
- 文化振興 ●学校 ●スポーツ



## 校訓は「明るく 楽しく 元気よく」

～冬的笑楽校(しょうがっこう)2016～

今年で6回目となる「冬的笑楽校」が、1月8日に中央公民館で開催され、保育園児から大人まで29人が参加し、普段の学校とはひと味違った授業を体験しました。

社会科では市役所の中を探検し、議場などを見学したほか、総合学習「ハッピーマネー講座」では宮腰知士さん(株秋田銀行)を講師にお金の賢い使い方について学びました。また、家庭科では講師の佐藤絹子さん(脇神)の指導で、かぼちゃだんごのおしるこ作りに挑戦。秋田大学の学生を講師に迎えた

「スペシャル!理科実験」では、地域や年代、学校の枠を超えて科学の楽しさを体験しました。



▲社会科の市役所探検で議場を見学する参加者

## 「火の民俗～秋田の『かまくら』をめぐる～」

～おやかたさ集まるべ講座～

おさるべ元気づらぶ主催の「おやかたさ集まるべ講座」が、12月25日に中央公民館で開かれ、火の文化的意味や「葛黒火まつりかまくら」について考察を深めました。

葛黒火まつりかまくらは、ご神木に巻きつけた稲わらに火を放ち、無病息災や無火災、五穀豊穡を祈願するもので、葛黒集落に伝わる小正月行事です。講師の長谷部八朗氏(駒澤大学教授)は、各地で行われている火の儀礼である「火祭」や、「かまくら」の特徴を紹介し、15年ぶりの復活から今年で3年

目となる「葛黒火まつりかまくら」の文化的価値について講話しました。



▲長谷部教授の講演に耳を傾けた公開講座

## まなぼう・あそぼう・つたえよう

～生涯学習フェスタ2015～

生涯学習フェスタ2015が、12月19日に中央公民館で行われ、地域で活動している個人や団体が、5つのステージ発表と6つの体験コーナーで日頃の学びの成果を披露し、会場はたくさんの参加者でにぎわいました。

手芸の体験コーナー「バタもっちマスコットづくり」では、フェルトを刺繍糸で縫い合わせ、北あきたバター餅のゆるキャラ「バタもっち」を作成しました。参加した小学生は、栄公民館で活動しているパッチワークグループの皆さんから、針の使い方や

縫い方のサポートを受けながら、オリジナルのマスコット作りを楽しみました。



▲オリジナルのマスコット作りを教わる児童

### 高校生クッキングトレイン ～未来応援シンポジウム～

開申 生涯学習係 ☎62・1130

内陸線お座敷列車を会場に、秋田北鷹高校と角館高校の家庭クラブが「内陸線美食ランチ」をつくりまします。  
期日 2月13日(土)  
会場 内陸線お座敷列車内

〔鷹巣駅発〕 12時41分  
〔角館駅着〕 15時10分

※帰りは角館駅からバスを運行  
内容 両チームプレゼンテーション、試食、車内シンポジウム、講師参加料 1000円(運賃含む)  
定員 25人  
申込締切 2月8日(月)

### 中央公民館公開講座

開申 中央公民館 ☎62・1130

#### 笑いヨガ

日時 2月16日(火) 9時30分

会場 中央公民館

講師 伊藤晴美さん(秋田笑いヨガ・ラフターヨガティーチャー)

申込締切 2月12日(金) / 参加費無料

### 今月のおすすめの本を紹介し

開 鷹巣図書館 ☎62・3311

▽武士道ジェネレーション(菅田哲也著)

### 合川公民館「ろばた講座」

開申 合川公民館 ☎78・2114

日時 2月26日(金) 13時30分

会場 合川公民館

講師 北秋田市教育委員会  
榎本剛治 主査

### 阿仁公民館公開講座

開申 阿仁公民館 ☎82・2220

#### 布ぞうりづくり講座

日時 2月26日(金) 10時～15時

会場 阿仁公民館

講師 高橋キヨ子さん

持ち物 はさみ、ものさし、昼食、筆記用具※使い古しの布がある方

はお持ちください(タオル地、綿)

申込締切 2月22日(月) / 参加費無料

### 葛黒火まつりかまくら

開申 長岐 ☎90・61018906

七日市葛黒の小正月行事「葛黒火まつりかまくら」を行います。

日時 2月21日(日) 15時～ご神木

起ち上げ開始、18時～点火儀式

会場 七日市葛黒火まつり会場

主催 葛黒火まつりかまくら実行委員会

無料送迎バス※要予約(2月10日まで)

▽中央公民館①14時発②16時発

▽葛黒火まつり会場 19時発

◎バター餅スープレシピ試食会もあります

## ふるさとの文化財

### 「縄文時代編」

3

今回は、2月の「2」にちなんで、入れ口が2つある注口土器を紹介し

### ○双口注口土器(白坂遺跡出土)

この土器は、笑う岩偶が見つかった白坂遺跡で出土した今から約3000年前のもので、上部にやや斜めに傾いた2つの入れ口を持ち、その形から「双口注口土器」の名前が付けられました。土器の表面は、笑う岩偶にも見られる「三叉文」(アルファベットの「Y」の字のような文様)で飾られ、形は他の注口土器と比べ、異彩を放っています。

一般に注口土器は、何かしらの液体物を一時的あるいは長期的に入れて保管し、現代の急須のように注いだものです。

この土器は、注ぎ口がかなり下側にあり、そのまま液体を入れた場合、土器下半分のそばん玉のように広がった部分までしか入りません(それ以上は注ぎ口より溢

れる)。土器一杯に液体を満たすには、注ぎ口を栓などで塞ぐ必要があります。注ぎ口をみると磨耗が観察され、繰り返し栓がされ、使用された可能性も考えられます。この土器は、たくさんの土器や石器とともに廃棄された状況で見つかりましたが、完全な形で残っており、壊れて投げ捨てられたものではなく、何かの役目を終え、物送りのような儀式により廃棄されたものと思われる。この土器には何が入れられ、どのような場面で使われたのでしょうか。



▶双口注口土器(白坂遺跡出土)

▽紹介者/北秋田市教育委員会生涯学習課文化係